

高志

長岡高専同窓会報 第16号

発行日 平成21年3月

主な内容

会長あいさつ	1
名誉会長あいさつ	2
佐藤國雄教授の遭難・捜索活動について	3
高専ロボコン全国大会の結果報告とお礼	4
第三者評価を受けて	5
JABEE審査と技術教育プログラム	5
「海外ものづくり学生派遣研修」を実施して	6
OB通信	7
退職のことば	8,9
教員の異動	10
学科生及び専攻科生の進路状況	10
同窓会長賞受賞者紹介	11,12
体育大会入賞者	13
決算・予算報告	14,15
事業年表・編集後記他	16

会長あいさつ

(土木1回卒) 伊藤 恒彦



新しい年を迎え、会員の皆様も気持ちも新たにますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平成16年10月23日「新潟県中越大震災」の発生で甚大な被害を受けたキャンパスも多くの関係者の方々の協力を得

て約2年の歳月を経て平成18年11月に復旧が完了しました。同窓会としても一日も早い学校の復興を支援するため会員の皆様方からは多くの協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

また、この震災から復興までを経験した学生達の今後の人生にとっては、貴重な体験であり、財産であり、長岡高専にとっても新たな伝統を築くとともに、再出発の始まりだったのではないかと考えています。

さて、21世紀に入り情報化、国際化などグローバル化が一段と進み、社会情勢の変化もより速くなっており、工業技術においても多様な新規分野が急速に展開し技術革新と産業構造の転換が進んでいます。

また、ようやくバブルの影響から抜け出し景気も回復傾向にあると思われた中、昨年発生した世界的な金融危機が国内においても多くの産業に影響を与え、特に自動車、家電などの主要産業においてもリストラが行われるなど大きな影響が出ており、業界全般的に厳しい状況化にあると考えています。

さらに、今年の世相を表す一字に「変」が選ばれていましたように、今、社会はいろいろな面で変化

を求めているのではないのでしょうか。

このような時代の中、これからの技術者に求められるものは、今後一層高度化と進化のスピードを増すであろう技術の方向性を的確に見極め、これに対応できる技術力であり、そのためには人材の育成が最も重要な事ではないかと考えています。

これらの人材は「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者の育成」を教育理念とする長岡高専で学ぶことで、これからの技術者に必要な基礎技術が培われることは基より、さらに専攻科に進み高度な知識を習得することで、新しい時代をきりひらく技術力を持ち、変化する社会の要請に応えられる多くの技術者が育っていくことを確信していますとともに、日本はもとより世界で活躍する技術者を社会へ送り出していかれることを期待しています。

最後に、会員皆様方のご活躍をご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



長岡高専 正面玄関

高等教育ユニバーサル化の中での 高専技術教育

長岡工業高等専門学校長

高田 孝次



経済状況が激変する中、皆様には大きな決意と緊張感をもって新しい年をお迎えになられたことと存じます。そしていよいよ、NHK大河ドラマ「天地人」の放映が始まりました。主人公の直江兼続と同じ“越後人DNA”を受け継いでいるはずの私達は、ドラマからより深い示唆を汲み取って今に活かすことが出来るのではないのでしょうか。同窓会員諸氏の奮闘を心よりご祈念申し上げます。

さて、昨年末（平成20年12月）、中央教育審議会において「高等専門学校教育の充実について」と題する答申が取り纏められました。このような審議会の場で高専教育に関して本格的な議論が行われたのは平成3年に大学審議会の答申「高等専門学校教育の改善について」が出されて以来、16年ぶりのことです。その背景と、新答申が打ち出している“充実の方向性”は概略、以下のようなものです。

高専制度は、後期中等教育を取り込んだ5年一貫の効率的な専門教育プログラムによって実践的技術者を育成する高等教育機関として創設されました。この狙いは見事に達成され、卒業生諸氏の活躍は社会から高い評価を得て今日に至っております。このことは高専教育に携わる私共の誇りです。いっぽう、過去40余年の間に、高等教育のユニバーサル化*、工業技術の高度化、産業のグローバル化、さらには15歳人口の減少等々、高専を取り巻く環境は大きく変化しました。

高専制度は、後期中等教育を取り込んだ5年一貫の効率的な専門教育プログラムによって実践的技術者を育成する高等教育機関として創設されました。この狙いは見事に達成され、卒業生諸氏の活躍は社会から高い評価を得て今日に至っております。このことは高専教育に携わる私共の誇りです。いっぽう、過去40余年の間に、高等教育のユニバーサル化*、工業技術の高度化、産業のグローバル化、さらには15歳人口の減少等々、高専を取り巻く環境は大きく変化しました。

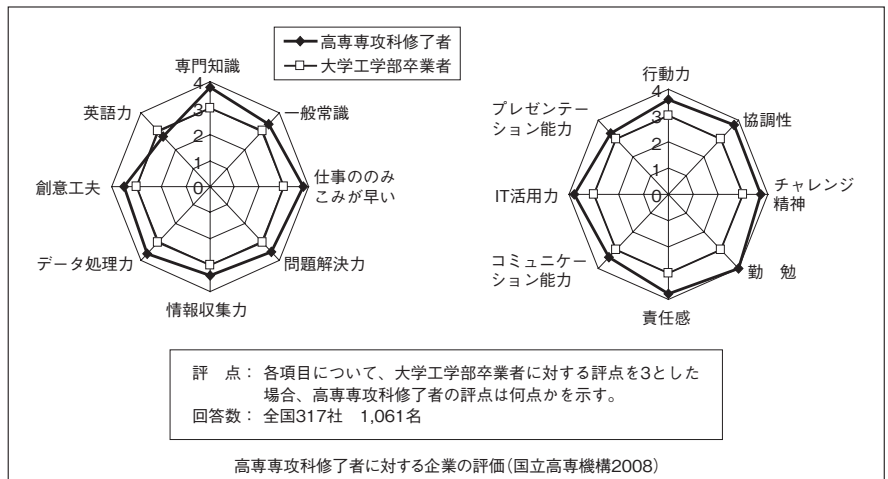
このような背景から、今次の答申では高専教育充実の方向として、量的拡張ではなく質的な充実に重点が置かれております。各高専が自主的・自立的改革に不断に取り組み、社会経済環境の変化に積極的に対応することを基礎に、教育目的として“中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ”と、質の向上に向かうべきことが明示されております。その中には、専攻科の明確な位置付けと地域ニーズを踏まえた充実、産業界や地域社会との連携強化などが含まれます。

こうしてみると、答申の方向性は、本校において既に実践されている改善努力の軌道と合致していることが分かります。私共は、おおいに自信を持って、着実に、社会の付託に応えるべく技術教育に邁進してま

いります。特に、高等教育のユニバーサル化が進む中で、15歳からの一貫教育という高専システムは、今後一層その特長を発揮するものと思います。例えば、創造性の涵養という観点からも高専の教育環境が有効と考えられます。創造性は教え込むものではなく、環境を整えて開花を促すものといわれますが、頭脳が柔軟な15歳で入学し、その後はいわゆる受験勉強の枠に捉われることなく専門分野の勉強をし、クラブ活動も楽しめる高専の環境は、若者の創造性を育み個性を伸ばす場として、大変優れていると、私は常々思っています。後期中等教育段階を取り込むことによって生まれているこの高専の特性は、今後さらに具体的な工夫によって磨かれるべき点でありましょう。

高専は法人化後、全国規模で様々な角度からの点検・評価を行って技術教育力の向上に努めております。ここで、その中の一つの調査結果を紹介します。この調査は、高専の専攻科修了者が大学工学部卒業者と比較してどのような特徴を持っているかを、就職後5年以内の技術職を対象として企業側から評価していただいたものです。質問事項は「専門知識」「一般常識」など16項目です。下のグラフに見られるように、ほとんどの項目で高専専攻科修了者の評価が工学部卒業者を上回る結果でした。“おまけ”の評点が含まれている可能性がありますが、私共は予想を超える高い評価に喜ぶとともに、責任の重さを改めて肝に命じた次第です。私共の今後の課題の一つとして、このような高専の技術教育環境を地域の技術者、特に若手エンジニアが技術・知識をリフレッシュする場としても役立てて行きたいと考えております。

*高等教育のユニバーサル化：アメリカの社会学者マーチン・トロウは、高等教育への進学率が15%を超えると高等教育はエリート段階からマス段階へ移行するとし、さらに、進学率が50%を超えるとユニバーサル段階と呼んでいる。



佐藤國雄教授の遭難・搜索活動について

佐藤國雄先生遭難・搜索報告

環境都市工学科 教授

佐藤和秀

2008年8月19日、本校環境都市工学科教授で山岳部顧問の佐藤國雄先生は長野県の白馬大雪溪（長さ約4km）付近で行方不明になりました。遭難経過と11月までの搜索状況の概略をご報告いたします。

1. 遭難の状況

8月18日(月)朝、長岡駅で山岳部学生7名は電車に乗り、佐藤先生は来迎寺で乗車し一緒になる予定であった。しかし学生は乗り遅れ、佐藤先生は直江津駅で学生を待った。学生らは特急列車で糸魚川まで行き、山に入る。先に白馬尻小屋キャンプ地に山岳部学生が到着した報を学校経由で知った佐藤先生は学生を追って夜遅く猿倉荘に到着宿泊。宿泊名簿には19日朝5時発の予定と記入してあった。結局、これ以後、佐藤先生の実際の行動は不明である。

8月19日(火)、学生達は5時、計画通り宿泊地の白馬大池山荘をめざし白馬尻小屋キャンプ地を出発、すぐ雪溪になるが雪溪の左側を行き、7時ころより激しい雨（猿倉荘と白馬山荘の雨量記録より）で8時頃引き返し、夕方までに長岡に帰る。

6時頃、白馬尻小屋付近で佐藤先生らしき人の目撃情報があった（警察情報）。

11時頃白馬大雪溪上部の土砂崩壊に2人が巻き込まれる。夜まで佐藤先生の情報はなし。

2. 初期搜索

8月19日(火) 白馬村に対策本部 大町警察署、山岳遭難防止対策協議会が中心となって白馬大雪溪土砂崩落現場で2名の搜索。白馬大雪溪ルート登山禁止。本校対策本部設置。

8月20日(水) 白馬村対策本部に佐藤先生の行方不明情報が伝わり、所在確認に全力を尽くすこと確認。

8月21日(木)、22日(金) 大町警察署、遭対協で大雪溪中心に搜索。22日へり出動。対策会議に校長出席。

8月23日(土) 大搜索（大雪溪、白馬尻から猿倉の川筋、姫川出合までの松川）本校山岳部OB9名参加。

8月24日(日)～26日(火) 崩落現場、2号、3号雪溪、雪溪の縁を搜索。本校山岳部OBも参加。崩落現場（ゾンデ、嗅覚等）、シュルンド、クレパス（目視）で搜索。

8月26日(火) 大町警察署が搜索活動の中断を決定。

8月27日(水) 許可得て、本校山岳部OB（2名）白馬尻川筋を搜索。夕方下山。

8月29日(金) 本校現地対策本部撤収

9月3日(水) 白馬大雪溪ルート通行禁止解除

9月4日(木)、5日(金) 登山計画ルート全般の搜索（猿倉－大雪溪－白馬岳－白馬大池－蓮華温泉）：大町警察署員1名+遭対協隊員2名

10月27日(月) 土砂崩落現場付近：大町警察署員2名+遭対協隊員3名

3. 本校の搜索

長野県遭対協の降旗隊長、長岡ハイキングクラブ（HC）室賀さんの助言と指導を得て今後の本校の搜索活動計画を立て実施した。

・尾根沿い搜索（ねぶか平－白馬大池）：9月13日、14日 長岡HC2名+山岳部OB5名

- ・崩落現場付近シュルンド付近の搜索：10月11日、13日 長岡HC8名+山岳部OB6名。アイゼン発見（その後の調査でも持ち主は特定できず）
- ・再度シュルンド付近の搜索：11月9日 長岡HC1名+山岳部OB2名
- ・大雪溪下部末端（ケレン）から白馬尻にかけての川筋：9月6日：本校教職員7名、9月21日：本校教職員5名+高専OB6名、10月4日：本校教職員5名+高専OB7名、10月18日：本校教職員8名+高専OB5名

4. 家族への報告説明

11月30日(日)（校長他6名+長岡HC2名+山岳部OB2名）

5. おわりに

当初、雪溪上部左岸崩落に佐藤先生も巻き込まれたのではと考えられたが、新聞配達の方が猿倉荘を5時半に出発、9時に白馬山荘に到着、引き返し10時半に崩落現場を通過下山していることなどから、雪溪および近辺での事故、崩落現場より上部での事故が想定されたが、いろいろな状況と搜索から雪溪内の事故が有力と考えられている。2009年1月現在も佐藤先生の行方はわかっていません。今回の遭難原因の究明と一刻も早い佐藤國雄先生の情報を望んでやみません。

- ・お父さーん 國さーん おとうさーん 叫べども 雪溪まぶしく 友は答えず
(8月22日 白馬雪溪にて家族と)

- ・情報なしと 夕方今日も告げられて 感謝の言の葉 発する奥様
(8月23日 大町警察署にて)



白馬大雪溪周辺図



白馬大雪溪 8月22日

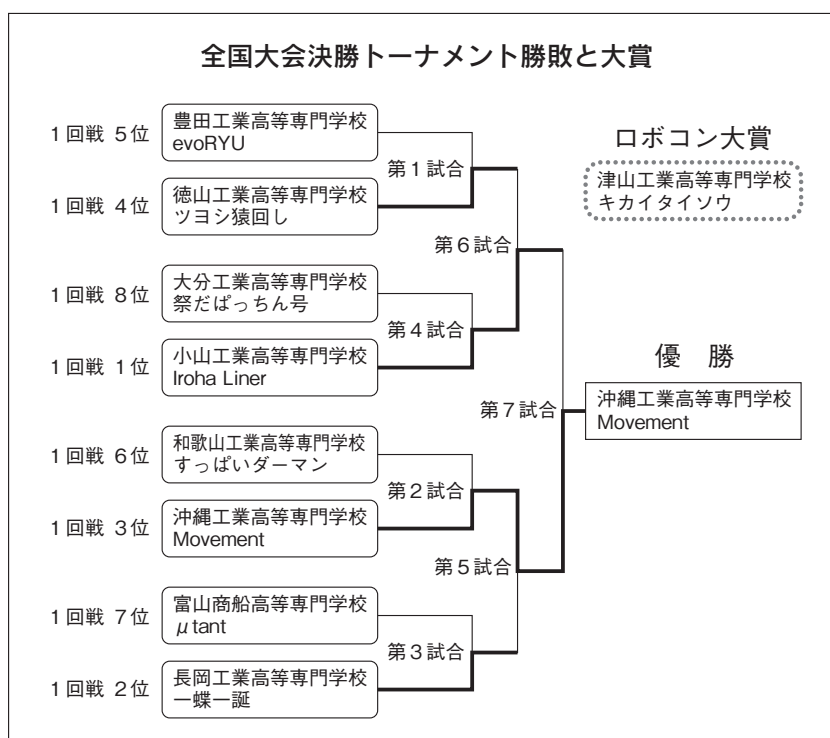
❖ 高専ロボコン全国大会の結果報告とお礼 ❖

ロボティクス部顧問（機械14回卒） 外川 一 仁

11月23日(日)、2008アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテストが、東京の両国国技館で行われました。今年も、地区大会が地元の長岡で開催だったこともあり、全国大会への学生の意気込みは凄いものがありました。我々顧問も、行ってくれるとは信じていたものの、出場が決まったときは、正直、ホッとしました。

全国高専ロボコンは、毎年、競技ルールが異なり、継続的な改良がやりにくいコンテストなのですが、今年は何と、ロボコン史上初となる「2足歩行」がテーマとなりました。そのため、従来のスピード重視のレースとは別に「ロボコン大賞」を選びやすいように全国大会での演出が大幅に変更されました。これは大会開催の1か月前のことであり、実行委員会の方々が大いに悩んだ様子がくみ取れます。元来、高専ロボコンにおいては、ロボコン大賞は優勝より格上の最高賞なのですが、ロボットの「質」は定量的に表現しにくいので、やはり「スピード勝負」というのが近年の学生達の制作主眼となっていました。今年出場権を得た本校の「一蝶一誕」チームも、優勝ねらいのスピードマシンでした。「優勝以外は何もいらぬ」というコンセプトにこだわりすぎたのは結果的には反省すべき点であります。しかし、夏休みを返上し、泊まり込みでロボット制作を続けた熱意は立派で、賞賛してあげたいと思います。

大会の様子は、以下の通りです。1回戦（予選）は出場全25チームが3分間の競技を最後まで行い、ゴールに達した記録の上位8チームが決勝トーナメントに出場できるというものです。本校の「一蝶一誕」は、予選で25チーム中2位のタイムを記録し、優勝候補に名乗りをあげ決勝トーナメントに出場しました。決勝トーナメントでは、富山商船高専と対戦し、アクシデントにも見舞われながらも逆転で勝利をおさめ、準決勝に進みました。準決勝では、予選と同じ沖縄高専と再び激突しました。予選では本校チームの記録が勝っていましたが、出るはずの



ないエラーに見舞われ、惜しくも敗れてしまいました。結果、優勝は沖縄高専、ロボコン大賞は津山高専となりました。入賞は逃してしまいましたが、実質3位となる大健闘です。本校の選手達は、大舞台の大変なプレッシャーの中で良く頑張ってくれたと思います。

最後になりましたが、同窓会に全国大会への応援団の旅費の一部負担をお願いしたところ、快くご支援を頂きました。国技館で100名を超える大応援団を作りましたのは、同窓生の皆さまからの熱い応援の賜であります。心から感謝いたします。



大会の競技の様子

第三者評価を受けて

電気電子システム工学科 教授

小林 和久

ここ6、7年程まえから高等教育機関に対して、教育研究の質の保証が強く求められるようになった。そのため、教育の点検・評価が多くの学校で行われるようになった。

平成15年度に学外有識者による外部評価委員会が本校で初めて開かれた。それから4年後の平成19年度に第2回の外部評価委員会が開催された。本校同窓会会長の伊藤氏をはじめ産官学及びメディアの有識者9名によって、本校の自己点検評価報告書に基づいて1. 学校の目的と概要 2. 教育活動 3. 学生支援 4. 研究活動と地域連携 5. 情報化・国際化への対応 6. 教育の点検評価改善への対応の各項目について点検・評価をお願いした。その結果、学生の海外派遣、地球ラボ活動や地域連携の取り組み等、総じて高い評価をいただいた。その一方で、今後の高専の役割、目指す方向を再度考えていく時期ではとの貴重な意見もいただきました。

また、高等教育機関の教育研究水準の向上に資するために教育研究、組織運営、施設設備などの総合的状況の評価を認証評価機関（高専は大学評価・学位授与機構）によって7年以内毎に実施することが学校教育法で定められ、本校は平成19年度に評価を受けた。

それは当該学校で掲げられた学校の目的（理念、教育目標）に沿って、学校の組織、教育内容及び方法、学生支援、施設設備、管理運営がなされているかどうかの評価される。

その結果、認証評価機関が定める高等専門学校評価基準を満たしていると評価されるとともに、特に優れた点として、専攻科課程における創造性を育む取り組み、就職や進学状況から十分な教育の成果や効果、国際性の涵養を図る特色ある取り組み、外部資金の獲得や民間等との共同研究の優れた活動、組織的な研究体制及び支援体制が評価されました。

このように評価されたのはこれまでの県・市、地域の産業界や同窓会諸氏のご支援の賜と思えます。今後ともよろしくご支援・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。なお、外部評価委員会及び認証評価結果の詳細はホームページに掲げてありますのでご覧いただければ幸いです。



外部評価委員会

JABEE審査と 技術教育プログラム

専攻科長

(電気10回卒) 山崎 誠

昨年度（2007年10月）JABEE（日本技術者認定機構）の中間審査を受け、2007年5月8日付で5年間の認定を受けました。認定分野は「工学(融合複合・新領域) 関連分野」、認定プログラム「生産システム・環境工学」となっています。震災復興を挟んでの審査（新規審査と中間審査）でした。卒業生はじめご協力いただいた皆様に感謝しております。

平成12年4月に本校に専攻科が設置されてから8年が経過し、本校はじめ高専が大学工学部とともに我が国の技術者教育を担っていることの理解も進んでいます。そして、技術者教育プログラムについて外部評価を受け、審査に合格することは、高専自体が持つ教育能力の高さを社会に示して行くのに大切なことと思います。

JABEEの認定を受けたことにより、専攻科の卒業生は、規定の履修内容を満たし、学士のタイトルを取得するとJABEEコース修了生ともなります。修習技術者の資格を得ることができ、技術士補としての申請することができます。また、技術士1次試験が免除され、技術士の資格取得にも有利となります。

JABEEの審査は、学習・教育目標の設定公開、学習・教育の量、教育手段、教育環境、学習・教育目標の達成、教育改善の6つの基準について行われます。本校は、「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者の育成」という教育理念のもと7つの教育目標を設定しています。このように以前にはなかった教育目標の明確化や自己点検・改善の活動が必要で、対応にはかなりのエネルギーを必要とします。しかし、学校の教育プログラムを点検し、外部に公表していくことが近年強く求められています。JABEEの認定を受けることも、必要なことと思っています。

平成16年4月に国立高専が独立法人となり、高専の状況は大きく変わりました。昨年12月末に中央教育審議会に高専に関する答申が出され、高専の教育実績を高く評価する動きもあります。学生の教育プログラムの充実とともに、人材育成などの地域貢献も重要な役割となっています。卒業生の皆様の援助もいただきながら、今後とも質の高い教育を学生に提供して行きたいと考えています。

「海外ものづくり 学生派遣研修」を実施して

機械工学科

(機械17回卒) 青柳成俊

今年度2008年9月、地球ラボ（国際交流学生支援室）と国際交流委員会の共催で、「海外ものづくり学生派遣研修」を実施しました。本研修はマレーシア・中国・ベトナムの3コースで、それぞれ10名・10名・8名の派遣日本人学生が、現地学生と協同ものづくりをしながら交流するというものです。マレーシアでは、クアラルンプールにある「高専予備教育センター（全国高専に留学生を派遣するための現地的教育機関）」で、現地学生と協同ものづくりに取り組みました。本学は全国高専の中でも多数の留学生が在籍していますので、その点を活かして計画したものです。実際、留学生の母校となる当センターを訪問して、高専編入希望の現地マレーシア学生、本学留学生、そして日本人学生の3者が、数日間ものづくりに悪戦苦闘しながら挑戦してしまし



マレーシア派遣グループ 本学留学生と市内探訪



マレーシア派遣グループ マラヤ大学訪問



ベトナム派遣グループ ハノイ国家大学訪問



中国派遣グループ 黒龍江工程学院訪問

た。各国とも同様、ものづくりですので、考え方や意見の相違、言葉の苦勞などがありますが、それ自体が学ぶべき内容となります。なお、交流した現地教育機関は、マレーシアが当センターとマラヤ大学、中国が黒龍江省ハルビン黒龍江工程学院、ベトナムグループがハノイ国家大学です。派遣学生にとっては、ほかの国を鏡として、日本の社会や科学技術の在り方・行方、高専で学ぶ自分の存在価値、工学を学ぶ意義等を考える機会でもあったと思います。異文化での日常や習慣、各国事情や経済状況についてまで、広範囲に学んだり経験したりする機会を与えることは大切ですので、今後もこのような「異文化協同教育活動」を継続発展していけたらと思います。語学を含めたコミュニケーション能力やプレゼンテーションスキルに対する向上心の芽生え、国外文化に対する関心の高まりとともに、「学生自らの内に芽生える新しい規準や行動規範の発見」も期待されます。本研修事業が、豊かな技術社会に貢献するための、的確な判断力と思考力をもつ学生の育成につながることを願っています。

「目指せ！プロフェッショナルエンジニア われら高専パワー全開」から

時田CVDシステムズ(株)

(工化15回卒) 時 田 修 二



「目指せ！プロフェッショナルエンジニア、われら高専パワー全開」では、Uターン後長岡技術科学大学博士課程に入学したこと、会社を設立したことやその後半導体関連事業を始めた経緯を紹介しました。

昨年後半からの金融危機で、半導体業界もその影響を受けていることはニュースで報じられて

います。当社の新しい顧客は、まさにその半導体関連企業ばかりです。デバイス(半導体)メーカー、半導体製造装置メーカー、装置部品メーカーなどに分けられます。パソコン、家電やケータイが売れない→半導体が売れない→デバイスメーカーが設備投資をしない→半導体製造装置が売れない→etc.のような流れで本年も低迷すると予想されています。さらに、デバイスメーカーは半導体製造装置の消耗品のコストを抑えようとしています。しかし、元々半導体プロセスは改善・コスト削減が進んでいるので、現場の努力も厳しいようです。

一方、当社の酸化イットリウムコート(商品名:SHIELD-C2)は、半導体工程で消耗の激しい部品(例えば、石英ガラスなど)の表面に薄くコートすることで数倍~数十倍に寿命を延ばす耐エッチング効果があります。半導体プロセスは、特殊な雰囲気シリコンウエハ(Si)への「選択的なエッチング」と「薄膜の堆積」などの工程の繰り返し(かなり簡略しています。)で半導体を作ります。その際に、同じように内部の装置部品も著しく削られていき、頻繁に部品交換が行われます。しかし、酸化イットリウムはこの工程においてシリコンに比べて不活性で安定である物性により、部品の表面を酸化イットリウムで覆えばバリア層として機能します。

この様に「部品寿命が延びる→コスト削減」から、幸運にも当社酸化イットリウムコートは、昨年後半から引き合いが徐々に多くなってきました。連携企業の営業努力のお陰で、酸化イットリウムの性能が顧客から評価され、その結果が徐々に出てきているのだと思います。

当社は、CVD法で酸化イットリウムをコーティングできる半導体業界で唯一の企業となりました。半導体はシリコンサイズが12インチ(300mm)へと大面積化し、製造装置も大きくなっています。当社も大型CVD装置を開発し大型部品に対応してきました。今後、処理能力を向上させた大型機を導入していく予定です。

はぐるま屋つれづれに

(株)長岡歯車製作所

(機械4回卒) 山 崎 隆



現場で非円形歯車についてディスカッション(中央筆者)

学窓を離れ四十年近く歯車製造業に身をおいている。その間、機械のNC化に伴い生産量は減じたが要求精度は高くなっている。

日本の歯車単体生産高は、年額で七百億~千二百億円くらいである。かなり隔たりがあるが、不況時、好況時と違ってもらえばいい。約半分を自動車等輸送機器関連が消費する。

製造現場では要求精度に応えるべく高精度、高機能加工機を継続的に導入している。

歯車加工機は欧州勢に一日の長があり、最終仕上機械はドイツ、スイス等からの輸入が多い。国内工作機械が入り難い市場である。

弊社も数台輸入し所有している。導入立会い時は、もう少し語学力を、と思うが帰国すると忘れてしまう。喉もと過ぎれば...である。

最近、高機能MC機とボールエンドミルによる歯車加工が散見される。加工ソフトの拡充とともに新しい生産手法として確立するであろう。

毎日歯車を作る者として、大いに期待し楽しみにしている。手法が変わると可能性が広がるからである。今までできなかったものが具体的な形になり、ひょっとすると、新しい歯車が生まれるかも知れない。技術開発の秘かな楽しみであり、興味であり、エネルギーである。

「われら高専パワー全開」でも記したが、弊社は非円形歯車を設計・製作できる数少ない企業である。開発のポイントは古典的な非円形歯車とNC歯車加工機を結合させたところにある。先人が苦労して考えた技術、知恵は宝なりの良い例と考えている。

浅川権八著「機械の素」をご存知だろうか。機構学の古典的名著である。初版1912年。第一次世界大戦の二年前である。多種多様な機構図と解説が大系的に記されている。図を見ているだけでも楽しく意外と知らないことが多い、と感じさせる本である。

百年に一度と言われ、世界が大揺れの経済不況の中、時間だけは万民平等にある。若きエンジニア諸君、少し時間を割き古典技術書を紐解いてみてはどうだろう。混沌とした現状から金平糖の角のごとく、飛び出すヒントが見つかるかも知れない。

偉そうに言えば、温故知新忘るべからず。

還暦の前に、流行らない喫茶店の片隅でとりとめもなく思い出したり考えたり...



舶用大型ベベルギアのかみあい試験見学を終えて(独Klingelberg社にて左端筆者)

退職のことば（『学園だより』より転載）

退職の喜び

一般教育科

久保田 敬 三



東大安田講堂学生占拠事件や学生運動の報道内容に時間の経過と共に落ち着きを感じられる時期に、2人ないし3人のグループが教官室を尋ねて来ては、「先生、ほく達学生がおかれている現状の中に、こんな事があるんだ」学生準則を抜粋したガリバン刷りの

内容を示し、日に何度も熱っぽく語っては出ていった。

県立高校の若い教諭で長岡に高専が在ることも知らなかった私に、長髪で髭面の大男達が連日語る其

の姿に圧倒されそうだったある日「先生まだ此処にきて日も浅いからおれ達の本当の気持ちは解らなくてもいいから反対の声だけは出さないでくれ」と言われ、これは豪い学校に來ちゃったなあと、先々心配なスタートをしてから早37年が過ぎました。

本日まで8代の校長に巡り会えましたし、素晴らしい皆様と接する事ができました。

それにも増して積極性と頑張る精神を兼ね備えた多くの善き学生の中で、人生の大部分を過ごせた事は、私にとってはかけがえの無い喜びでした。本日に有難う御座いました。

最後になりましたが長岡高専の益々の御発展を祈念し退職の挨拶と致します。

40年間（新潟地震から中越地震）

一般教育科（数学）

鈴木 雅 之



1964年6月16日昼、大地震が新潟市を襲いました。学生時代で、ボランティアにアルバイトにと幾多の貴重な経験を得、ほぼ復興なった1年半後の1966年4月、長岡高専に教員として着任しました。1期生が5年に進級し、高専1～5年生が初めて誕生した年でした。

あれから40年、今年の卒業式が高専の40回目です。

記憶も新しい2004年10月23日夕方、再び新潟を大地震が襲いました。今回の新潟県中越地震です。

ついこの間まで余震に悩まされ続けた日々。高専の災害復旧工事が続く中、奇しくも地震から1年半後の2006年3月、定年にてこの高専を去ることに、何か不思議な、異様な気分です。復興で新しく生まれ変わる長岡高専の、ますますの発展を切望して居ります。

長い間お世話になりました。有り難うございました。

「退職にあたって」

機械工学科

小林 雅 隆



ある先輩は、「停年」という言葉が嫌いで、「告老」（自主的に老いを告げて引退する）という言葉を使いたいと言いました。私は「卒業」の言葉を使いたいと思います。浮世でやるべき勤めを果たし、ようやく自主的に生きる世の中へ旅立つという気持ちです。ある先生に「学校の将来のために尽くす気がなければいかん。」と言われ、この実践・教育に42年間経ってしまいました。

過ぎてしまえば光陰矢の如し、と言うより一夢の中との感じです。教育は試行錯誤の繰り返しでした。結局、我々が学生を好きになることが、学生がついて来る所以であり、一緒に楽しみながらやる事が一番大切と、ここへ来て初めて納得できたように思います。人生は残される者の方が切ないものようです。申し訳ありませんが一足先に卒業させて頂きます。皆様長々ありがとうございました。

退職のことば（『学園だより』より転載）

新しい本校の発展を 期待します

電子制御工学科

北原 拓夫



このたび定年退職することとなりました。昭和46年に本校に採用になり、以来35年が過ぎました。当初機械工学科に所属し、その後電子制御工学科の新設に伴い、電子制御工学科の所属になりました。年数を数えてみますとあらためて年月の過ぎ去る速さを実感します。

この間日頃三つの素晴らしさを感じておりました。ひとつ

は、本校が自然豊かな素晴らしい環境に位置していること、そして、職員の皆さんが常に温かく接して下さること、さらに、本校の学生たちが皆素晴らしい人物であること、の三つです。このような職場で35年間ものあいだ勤務できたことを有難く感謝しています。

震災を機に校舎も趣を一変しつつありますが、新しい長岡高専の大いなる発展を期待しています。

お世話になりました 長くも短い…、寂しくも嬉しい…

物質工学科

岩田 實



長岡高専に勤務して、丸39年が経過しました。この年月は長いといえば確かに長い、「光陰矢の如し」といえばそんな気がします。また現在の心境としては、寂しくも嬉しい複雑な思いに駆られています。嬉しいという気持ちは、ともかくもゴールに無事たどり着けそうだという安堵感ともいうのでしょうか。

先日ある若い先生から、「岩田先生を39年間高専に留めたものは何ですか」と、不意の質問をされました。ちょっと躊躇しましたが思わず、「それはいい学生たちに恵まれたから」と、口走っていました。ちょっと格好良すぎたかもしれませんが、でもこれは嘘ではないと今でも思っています。学生たちだけではなく、教職員の皆様にも恵まれて、こんなに幸せなことはなかったと感謝の念でいっぱいです。

長い間本当にお世話になりました。長岡高専のますますの発展を心より祈っております。

ゼロからの再出発

物質工学科

畑 勝次



本校に赴任したのは昭和42年、長岡は初めてで、ちょうど今年のような大雪、えらい所に来てしまった、と思った。学生時代、新潟の西大畑のグラウンド（新潟大学）に、ラグビーの遠征試合で来たきりで、馴染みがなかった。爾来39年間、先輩・後輩、仲間達に支えられ、今日の退職を迎えることができ

た。重ね重ね感謝するとともに、お礼を申し上げます。

毎年4月、初々しい少年、少女が入学してきて、新たな一年の幕開け、期待が膨らむ一時であった。心身の成長期を共に歩む、贅沢なことである。卒業していった数多くの学生が彷彿としてくる。いつまでも若くあってほしい。

新装の高志台では、学生がより伸びやかに育つことであろう。真摯な学生が多くなるほど、より贅沢を味わわせてくれる。

今、古い高志台と共に去る時が来た。未知の世界への第一歩、生活が成り立つか、不安ではある。Que Sera Sera。また、ゼロからの出発である。

ありがとうございました

環境都市工学科

福田 誠



長岡高専に来て8年になります。高専周辺の景色はずばらしく、運動場から眺める長岡市内の夜景は心を癒してくれました。私は社会人になってから、国外も含め技術者として転々としてきましたが、今は地固に残せた自分の仕事に誇りも持っています。高専に赴任して実行してみたか

ったことは、人材の育成は当然の事として、地元市民や企業への支援ということでした。相手の良い所を学び、何を考え、何をしようとしているのか、一歩引いて相手の立場を理解して、直ぐに行動してあげることで信頼関係が出来てきたと思っています。中越地震では高専も建物や地盤に多大の被害を受けましたが、実際に大地震を体験した学生、教職員の思いは一生の内では、何処かで良薬となると思います。最後に、再建される建物と新たな高専の出発に期待し、お世話になった皆さんに感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

教員の異動 (平成18年3月～平成21年1月)

【退職】	【新任】
<p>(平成18年3月31日付け)</p> <p>久保田敬三 一般教育科教授 定年退職 鈴木 雅之 一般教育科教授 定年退職 小林 雅隆 機械工学科教授 定年退職 北原 拓夫 電子制御工学科教授 定年退職 岩田 實 物質工学科教授 定年退職 畑 勝次 物質工学科教授 定年退職 福田 誠 環境都市工学科教授 定年退職 岩間 正典 物質工学科教授 退職 佐藤 拓史 電子制御工学科助手 退職 (長岡技術科学大学へ)</p> <p>(平成19年3月31日付け)</p> <p>廣川 純夫 機械工学科教授 定年退職 吉田 茂 環境都市工学科教授 定年退職 茅野潤一郎 一般教育科講師 退職 山岸 真幸 機械工学科 配置換 (長野工業高等専門学校へ)</p> <p>(平成20年3月31日付け)</p> <p>長谷川健一 一般教育科講師 任期満了退職 宮下 幸雄 機械工学科准教授 退職 (長岡技術科学大学へ)</p> <p>高橋 綾子 一般教育科講師 退職 (長岡技術科学大学へ)</p> <p>佐々木伸子 環境都市工学科准教授 配置換 (徳山工業高等専門学校へ)</p>	<p>(平成18年4月1日付け)</p> <p>高橋 綾子 一般教育科講師 採用 小川 秀 一般教育科講師 採用 前川 直也 一般教育科助手 採用 宮下 幸雄 機械工学科助教授 採用 佐々木 徹 機械工学科助手 採用 丸山 一典 物質工学科教授 採用 小出 学 物質工学科助教授 採用 赤澤 真一 物質工学科助手 採用 岩波 基 環境都市工学科助教授 採用</p> <p>(平成19年4月1日付け)</p> <p>土田 泰子 一般教育科講師 採用 長谷川健一 一般教育科講師 採用 佐々木伸子 環境都市工学科准教授 配置換 (徳山高専から)</p> <p>吉田 茂 環境都市工学科特任教授 再雇用 廣川 純夫 機械工学科嘱託教授 再雇用</p> <p>(平成20年4月1日付け)</p> <p>吉田 茂 環境都市工学科嘱託教授 再雇用 廣川 純夫 機械工学科嘱託教授 再雇用 佐藤 拓史 電子制御工学科助教 復帰 山岸 真幸 機械工学科准教授 配置換 (長野高専から)</p> <p>八田 茂実 環境都市工学科准教授 配置換 (苫小牧高専から)</p> <p>池田富士雄 機械工学科助教 配置換 (高知高専から)</p>

学科生及び専攻科生の進路状況

平成17年度 平成18年3月現在

■学 科

学科名	卒業生数	進学	就 職		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	41	27	7	6	1
電 気 工 学 科	38	26	7	5	0
電 子 制 御 工 学 科	39	33	3	3	0
物 質 工 学 科	35	28	5	1	1
環 境 都 市 工 学 科	35	27	4	3	1
計	188	141	26	18	3

■専 攻 科

学科名	卒業生数	進学	就 職	
			県内	県外
電子機械システム工学専攻	18	10	5	3
物 質 工 学 専 攻	3	1	0	2
環 境 都 市 工 学 専 攻	5	4	0	1
計	26	15	5	6

平成18年度 平成19年3月現在

■学 科

学科名	卒業生数	進学	就 職		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	42	33	5	3	1
電 気 工 学 科	39	26	4	7	2
電 子 制 御 工 学 科	37	29	4	3	1
物 質 工 学 科	44	33	3	8	0
環 境 都 市 工 学 科	42	31	8	2	1
計	204	152	24	23	5

■専 攻 科

学科名	卒業生数	進学	就 職	
			県内	県外
電子機械システム工学専攻	16	2	6	8
物 質 工 学 専 攻	10	4	3	3
環 境 都 市 工 学 専 攻	11	6	3	2
計	37	12	12	13

平成19年度 平成20年3月現在

■学 科

学科名	卒業 者数	進学	就 職		その他
			県内	県外	
機 械 工 学 科	41	31	5	5	0
電 気 工 学 科	44	25	7	11	1
電子制御工学科	42	38	1	2	1
物 質 工 学 科	41	33	2	5	1
環 境 都 市 工 学 科	40	27	4	7	2
計	208	154	19	30	5

■専 攻 科

学科名	卒業 者数	進学	就 職		その他
			県内	県外	
電子機械システム工学専攻	19	3	10	5	1
物 質 工 学 専 攻	6	0	3	3	0
環 境 都 市 工 学 専 攻	9	5	1	3	0
計	34	8	14	11	1

同窓会長賞受賞者紹介

■平成17年度同窓会長賞 受賞者

	氏 名	学科	所属	理 由
1	中村 裕貴	Ci	陸上部	地区大会4×100リレー 2年連続優勝 全国大会 2年連続決勝進出・入賞他、3年間部長を務めた
2	真保 鮎子	Ec		地区大会100m 2年連続優勝、全国大会100m 4位入賞
3	高橋 香	Ci	テニス部	H16年、H17年 全国大会女子ダブルス 3位
4	角田 智美	Ci		H17年 全国大会女子ダブルス 3位（高橋とペア）
5	松永 和也	Ci	柔道部	全国大会出場多数、団体 3位（H13,15,17年）
6	増田 航	MB		全国大会出場多数、団体 3位（H13,15,17年） 90kg級 3位（H17年）、H17年全国日本学生柔道体重別北信越代表
7	萩野清太郎	Me		H16,17年 全国大会コーチ
8	本間 健一	Me	バレー部	H17年 全国大会 3位
9	稲田 浩明	Ec		H17年 全国大会 3位
10	赤坂 絢子	Ec		H17年 全国大会 3位（コーチ）、5年間マネージャー
11	星野 緑	MB		H17年 全国大会 3位（マネージャー）、5年間マネージャー
12	小林 淳	MB		H17年 全国大会 3位
13	小林 広幸	MB		H17年 全国大会 3位

■平成18年度同窓会長賞 受賞者

	氏 名	学科	所属	理 由
1	小池 薫	Ci	柔道部	全国大会H17年度団体戦 3位メンバー、H18年度個人出場
2	石黒 一馬	Ci		全国大会H17年度団体戦 3位メンバー 第3回湊谷杯北信越学生柔道選手権大会73kg級優勝
3	金子 紅里	MB		H15～18年度全国高専女子柔道選手権大会個人戦関東信越地区代表
4	今井 達郎	Me	バスケット ボール部	H16～18年度全国大会出場、地区大会H16年度準優勝、H17,H18年度優勝メン バー（登録選手）
5	浅野 武史	Ec		H16～18年度全国大会出場、地区大会H16年度準優勝、H17,H18年度優勝メン バー（登録選手）
6	柴木 優美	Ec		H16～18年度全国大会出場、地区大会H16年度準優勝、H17,H18年度優勝メン バー（マネージャー）
7	中島 千博	Ci	バレーボール部	H17年度全国大会 3位メンバー
8	川上 裕雅	Ec	ロボティクス部	H18年度地区大会準優勝・全国大会出場選手、H16年度全国大会出場ピットクルー

■平成19年度 同窓会長賞 受賞者

	氏名	学科	所属	理由
1	原 一貴	Ec	陸上部	H17,H18年 地区大会100、200、400x100R 3冠 H18年 全国大会 100、200 6位
2	猪爪 宏彰	Ec		H17年 地区大会110H 4位 H16年 震災後、トレーニング環境確保のために奔走 H17年 4x100R, 4x400R 全国大会出場
3	斉藤 弥生	Ci		H17年 地区大会 女子800 2位 全国大会出場
4	松永 和也	ACi	柔道部	(卒業時にも受賞) H19年 湊谷杯北信越学生柔道体重別選手権大会 優勝、最優秀選手
5	武部 真悟	Ci		H17、H18、H19年 全国大会で活躍 H17年 団体3位メンバー
6	志田 哲史	MB		H16、H17、H18、H19年 全国大会で活躍 H17年 団体3位メンバー
7	酒井 紀行	E		H17、H18、H19年 全国大会で活躍 H17年 団体3位メンバー
8	平井 一徳	Ec	バスケットボール部	H16年 地区大会準優勝、全国大会出場 H17年 地区大会優勝、全国大会出場 H18年 地区大会優勝、全国大会出場 H19年 地区大会優勝、全国大会3位
9	丸山 圭介	Me		
10	目黒 裕輝	Me		



平成19年度 同窓会長賞授賞式

体育大会入賞者

平成18年度 高専全国大会 関東信越地区体育大会（全国出場者）

◎陸上競技

男子100m 1位 原 一貴
男子200m 1位 原 一貴
砲丸投げ 3位 内山 政明
円盤投げ 1位 内山 政明

◎バスケットボール

優勝

◎卓球

男子 2位

◎柔道

男子団体 2位
男子60kg級 2位 小池 薫
男子73kg級 1位 萩野 宗次朗
女子52kg級 1位 山崎 孝子
女子63kg級 2位 若月 智秋
女子64kg級 3位 金子 紅里

◎剣道

男子 個人 2位 青木 仁孝

◎水泳

男子200m背泳ぎ 2位 高田 祐生
男子100m自由形 1位 本間 達朗

第41回全国高等専門学校体育大会 （上位入賞者）

◎陸上

男子100m 6位 原 一貴
男子200m 6位 原 一貴

◎柔道

女子63kg級 3位 若月 智秋

平成19年度 高専全国大会 関東信越地区体育大会（全国出場者）

◎陸上

男子走り幅跳び 1位 山岸 翔太
男子円盤投げ 3位 梅澤 将充
男子砲丸投げ 3位 梅澤 将充

◎バスケットボール

優勝

◎柔道

男子団体 2位
男子73kg級 2位 石津 謙太郎
男子90kg級 1位 金井 信和
女子52kg級 1位 山崎 孝子
女子63kg級 2位 若月 智秋
女子48kg級 2位 小林 千玲

◎野球

2位

◎剣道

団体 2位
男子個人 2位 山崎 峻

◎水泳

男子100m背泳ぎ 2位 山崎 脩道
男子200m背泳ぎ 3位 林 風騎

◎バドミントン

女子個人 3位 樋山 麻美

第42回全国高等専門学校体育大会 （上位入賞者）

◎バスケットボール

3位

◎柔道

女子63kg級 3位 若月 智秋

平成20年度 高専全国大会 関東信越地区体育大会（全国出場者）

◎陸上

総合2位
男子200m 3位 高野 滉一
男子1500m 3位 中村 浩祐
男子5000m 1位 中村 浩祐
男子110mH 1位 三川 幸宏
男子4×400mR 2位 阿部、高野、
山岸、長谷川
男子走り幅跳び 2位 山岸 翔太
男子円盤投 2位 梅澤 将充

◎バスケットボール

優勝

◎柔道

男子団体 優勝
男子73kg級 2位 石津 謙太郎
男子90kg級 1位 石津 謙太郎
女子48kg級 2位 小林 千玲
女子52kg級 1位 山崎 孝子
女子52kg級 3位 岩崎 かおり
女子63kg級 1位 若月 智秋

◎剣道

男子 3位 山崎 峻

◎ハンドボール

優勝

◎水泳

男子100m自由形 2位 林 風騎
男子100m背泳ぎ 1位 山崎 脩道
男子100m平泳ぎ 3位 加島 徳人
男子200m平泳ぎ 3位 大面 遼司
男子400mフリーリレー 1位

第43回全国高等専門学校体育大会 （上位入賞者）

◎陸上

男子5000m 8位 中村 浩祐
男子110mH 8位 三川 幸宏
男子円盤投 6位 梅澤 将充

◎柔道

女子63kg級 3位 若月 智秋

◎水泳

男子100m背泳ぎ 4位 山崎 脩道

平成17年度決算報告

収入の部

(単位：円)

摘要	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	26,138,084	26,138,084	
会 費	3,630,000	3,375,000	@15,000 × 225人分
利 息	20,000	5,326	
名簿代金	-	12,000	@3,000 × 4冊
寄 付 金	-	0	
雑 収 入	-	0	
合 計	29,788,084	29,530,410	

支出の部

摘要	予 算	決 算	備 考
総補助会費	600,000	0	
会費発行費	-	974,903	
終身会費返還費	-	305,000	終身会費@10,000 × 29人分+入学直後の退学者@15,000×1名
名簿発行費	-	980	
事務費	200,000	19,430	
旅費・日当	200,000	73,000	
会議費	100,000	0	
卒業証書ファイル	170,000	152,880	
通信費	30,000	20,960	
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	0	
人件費	400,000	240,000	役員手当+@20,000×8ヶ月分
同窓会長賞	110,000	118,506	受賞者15名
予備費	320,000	363,908	香典、餞別、高専シンポジウム補助20万円
合 計	2,250,000	2,269,567	
次年度繰越金	27,538,084	27,260,843	
累 計	29,788,084	29,530,410	

資産内訳

	金融機関	支店	口座	残高
会費口座	大光銀行	中沢	普通	4,445,259
寄付口座	大光銀行	中沢	普通	1,524,043
名簿代金	郵便貯金	栖吉	普通	86,157
	大光銀行	中沢	定額	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,133,411
	郵便貯金	中沢	定期	8,066,112
現金				5,861
合計				27,255,843

平成18年度決算報告

収入の部

(単位：円)

摘要	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	27,260,843	27,260,843	
会 費	3,810,000	3,240,000	@15,000 × 216人分
利 息	5,000	18,989	
名簿代金	-	15,000	@3,000 × 5冊
寄 付 金	-	10,000	
雑 収 入	-	0	
合 計	31,075,843	30,544,832	

支出の部

摘要	予 算	決 算	備 考
総補助会費	500,000	977,212	
終身会費返還費	-	340,000	終身会費@10,000 × 34人
事務費	200,000	915	
旅費・日当	200,000	136,500	
会議費	100,000	13,534	
卒業証書ファイル	170,000	142,695	
通信費	30,000	19,060	
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	0	
人件費	200,000	80,000	役員手当
同窓会長賞	100,000	94,061	受賞者8名
復興記念行事補助	1,000,000	1,000,000	
予備費	350,000	711,000	香典、餞別、技大30周年記念事業50万円
合 計	2,970,000	3,514,977	
次年度繰越金	28,105,843	27,029,855	
累 計	31,075,843	30,544,832	

資産内訳

	金融機関	支店	口座	残高
会費口座	大光銀行	中沢	普通	4,174,384
寄付口座	大光銀行	中沢	普通	1,524,704
名簿代金	郵便貯金	栖吉	普通	100,760
	大光銀行	中沢	定額	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,134,163
	郵便貯金	中沢	定期	8,079,040
現金				16,804
合計				27,029,855

平成19年度決算報告

収入の部

(単位：円)

摘要	予算	決算	備考
前年度繰越金	27,029,855	27,029,855	
会費	3,105,000	3,195,000	@15,000 × 213人分
利息	10,000	37,403	
名簿代金	-	6,000	@3,000 × 2冊
寄付金	-	0	
雑収入	-	0	
合計	30,144,855	30,268,258	

支出の部

摘要	予算	決算	備考
安定化基金	24,000,000	24,000,000	
名簿発行費	4,042,500	4,042,500	
終身会費返還費	-	310,000	6月15日終身会費@10,000 × 31人
事務費	200,000	5,355	第一印刷CDROMデータ
旅費・日当	200,000	85,000	
会議費	100,000	7,934	
卒業証書ファイル	170,000	128,772	
通信費	30,000	16,940	
支部結成補助費	20,000	0	
支部補助費	100,000	0	
人件費	200,000	80,000	H20,3,12 (役員会にて)
同窓会長賞	70,000	58,537	受賞者8名
予備費	350,000	30,520	香典, 事務へのお礼
合計	29,482,500	28,765,558	基金を除く分の合計は4,765,558円
次年度繰越金	662,355	1,502,700	
累計	30,144,855	30,268,258	

資産内訳

	金融機関	支店	口座	残高
通常会計用	大光銀行	中沢	普通	1,378,584
	郵貯銀行	栖吉	普通	100,906
	現金			23,210
	(小計)			1,502,700
基金積立用	大光銀行	中沢	定期	10,000,000
	北越銀行	本店	定期	3,140,432
	郵貯銀行	中沢	定期	8,093,056
	大光銀行	中沢	普通	2,766,512
	(小計)			24,000,000
合計				25,502,700

平成20年度予算

収入の部

(単位：円)

摘要	予算	備考
前年度繰越金	1,502,700	
会費	3,105,000	@15,000 × 207人分 (本科200・編入生7・専攻科0)
合計	4,607,700	

支出の部

摘要	予算	備考
会報発行費	1,000,000	ちなみにH17年度会報は974,903円
事務費	200,000	
旅費・日当	200,000	
会議費	100,000	
卒業証書ファイル	170,000	
通信費	30,000	電話代金は後援会支払い (権利は同窓会)
支部結成補助費	20,000	
支部補助費	100,000	
人件費	200,000	役員手当、臨時アルバイト代 (時給800円だと150時間分)
同窓会長賞	100,000	記念品 (10名)
予備費	350,000	学校補助を適宜行なうため
合計	2,470,000	
次年度繰越金	2,137,700	
累計	4,607,700	

- 補 足 -

安定化基金申し合わせ (平成20年 2月29日)

事業年表 (平成19、20、21年)

平成19年11月	常任理事会 新潟中越沖地震関係 名簿発行について
平成19年12月	名簿発行
平成20年 2月	常任理事会 名簿発行の報告 同窓会長賞について 安定化基金について
平成20年 3月	定期理事総会
平成20年 5月	名簿データ作成
平成20年 7月	同窓会事務引き継ぎ
平成20年 8月	常任理事会 佐藤國雄先生捜索について
平成20年 9月	佐藤國雄先生捜索活動に対する募金活動 (対応：土木工学科、環境都市工学科)
平成20年10月	常任理事会 高専ロボコン派遣支援について
平成21年 2月	常任理事会 同窓会長賞について 同窓会報 高志第16号発行について 創立50周年記念事業案内同封(会報)について
平成21年 3月	同窓会報 高志第16号発行(予定) 定期理事総会(予定) 創立50周年記念事業について 同窓会決算・予算について 同窓会長賞について



高志会の活動紹介

高志会は、長岡高専同窓会の発展と会員相互の親睦のために活動しています。主なものは、(1)高志会総会、(2)同窓会報の発行、(3)高志会名簿の発行で、毎年1件ずつ3年のインターバルで実施しています。昨年度は高志会名簿を発行しましたが、中越大震災の際に事業の順番を入れ替えましたので、今年度は会報の発行となりました。

平成23年度には長岡高専創立50周年の式典が予定されています。高志会としても式典に積極的に協力する予定です。

この他、毎年卒業式後に行なわれる表彰授与式において、在校時の課外活動で優秀な成績を収めた卒業生に対して同窓会長賞を授与しています。また、卒業生全員に授与される卒業証書のカバーなどの援助も継続して行なっています。

これらの高志会の活動や各種の情報は、ホームページに掲載しております。

(URL: <http://www.nagaoka-ct.ac.jp/do/>)

なお、近々リニューアル予定です。こちらもぜひ御覧いただければと存じます。

(前総務担当 電気25回卒 竹部啓輔)

個人情報の取り扱いについて

同窓会高志会が収集した個人情報は、同窓会名簿の作成及び会報などをお送りするための宛名出力の付帯業務に使用することを目的としており、それ以外には利用いたしません。

収集した個人情報について、委託先も含め、機密保持には万全を尽くします。

自己情報を照会したい場合は、同窓会高志会までご連絡ください。本人であることが確認できた場合に限り、開示いたします。その結果、訂正または削除を希望される場合はそれに応じます。

編 集 後 記

卒業生の皆さんは、学校にどんなイメージを持っているでしょうか？学生時代、社会に出て、見方が変わった方もあるかもしれません。一昔前の高専には独特な時間が流れ、個性的な学生が巣立っていたとよく聞きますが、現在は、高志台の下を流れる時間、他校学生とほとんど違いがみられません。情報速度と手段の進歩には目を見張るものがありますが、教員・学生にはゆとり(あそび)がないようにもみえます。ここ最近はやとり教育といていたはずなのに皮肉なものです。これからは、変革の時代から責任の時代へシフトし、出口の保証(知力・学力・体力etc.)も要求されます。教育の質が問われることとなります。創立50周年を目前に、これからも高専出身者が社会でさらなる飛躍ができますように同窓諸兄のバックアップと学校への提言をどしどしお願いいたします。

今回、同窓会報の発送に合わせ、創立50周年記念事業に関する趣意書を同封致しました。記念事業に関する詳細はこれから随時アナウンスさせていただきますが、皆様のご協力を今後ともよろしくお願い致します。(総務 工化15回卒 鈴木秋弘)

書籍紹介

「目指せ！プロフェッショナルエンジニア われら高専パワー全開」
(独)国立高等専門学校機構 産学連携・地域連携委員会
「社会で活躍する高専卒業生たち」編集委員会編(日刊工業新聞社)
定価 1,680円(本体1,600円)
・昭和37年に創設された高専は、これまで約35万人の卒業生を世に送り出し、社会で卓越した活躍をし、多くの足跡を残してきました。この本では、そんな卒業生の活躍を広く知ってもらおうという企画のもと、幅広い分野の高専卒業生を取り上げたものです。

長岡工業高等専門学校同窓会高志会

〒940-8532 長岡市西片貝町888

長岡工業高等専門学校内

電話：0258(32)6435 (代表)

電子メール：kosikai@nagaoka-ct.ac.jp